

## 《文化部門 地域文化研修 2022（第2回）》

### 新市町信岡邸・府中市立歴史民俗資料館—備後の歴史的建造物見学

2021年度から始まったセンター主催地域文化研修は、今年度は、「備後の歴史的建造物見学」ということで、近世の大庄屋として地域でリーダー的役割を勤めた信岡家の邸宅と、明治期の擬洋風建築の元郡役所、現府中市立歴史民俗資料館を訪れた。今年度は、人間文化学科に加えて建築学科の学生にも声をかけ、計10名（引率、青木美保（人間文化学科教授）、藤原美樹（建築学科教授））が参加した。

#### ▲日程

1、日時 2月11日（土）

2、場所

① 信岡邸（信岡フラットミュージアム） 〒729-3101 広島県福山市新市町戸手 2166

② 府中市立歴史民俗資料館 〒726-0021 府中市土生町 882-2

3、日程 2月11日（土）

9:20 松永駅スクールバス発着場集合

9:30 出発

10:00 信岡邸（信岡フラットミュージアム）到着

建物内見学と説明を受ける、

10:00~10:45

① 江戸期の大庄屋の暮らしと建物、信岡家の歴史 古文書の読解と保存 講師 山名洋通氏

10:45~11:15

② 文化遺産の保存と活用（建築物について）

講師 大角雄三氏

11:45 信岡邸・出発

12:00 昼食 備後府中焼き・あわけん 一宮 〒726-0005 広島県府中市府中町 559-2

13:00 出発

13:30 府中市立歴史民俗資料館 〒726-0021 府中市土生町 882-2

建物見学、展示の説明を受ける。

14:30 出発

15:30 松永駅スクールバス発着場到着解散



信岡邸で昼講の説明を受ける。



信岡邸のミュージアム改築に携わった大角雄三設計事務所の大隅所長から、母屋の梁と天井の構造について説明を受ける。



府中市立歴史民俗資料館で、府中市の古代の歴史（古墳や副葬品等）、元郡役所の建物の歴史的意義についての説明を受けた後、学生2名が奈良時代の服装を着用する体験をした。その二人を囲んで記念撮影。

## ▲研修の内容

### 1. 信岡邸の建物と暮らし

講師 山名洋通氏（元新市町歴史民俗資料館館長、令和2年度ひろしま文化功労者表彰受賞）

先生のお話は、依頼した研修の主旨に沿って、建物の建て方、またその見方から説明され、一般的な建物の話から信岡家の特徴を説明するという流れでなされました。

- ① 家には、「1に水、2に山、3に道」という3つの立地条件があるとのことであった。
- ② 信岡家は、西国街道と石州街道が交差する地点にあり、神谷川に沿って「戸手用水」を引いて、畑を水田にして村の経済を助けた。
- ③ 西本願寺に畳を納めるための畳講の代表を務めて、信仰生活の営みの中心的存在であった。
- ④ 村としての発展を目指すため、村民の教育、特に女子教育の必要性に気づき、女子のための学校を創設、運営した。

持続可能な地域社会を経営するために、何が必要であるかが、これらのお話から読み取ることができた。参加した学生たちが聞き取ったことを見ると、この研修の意義がよくわかるおはなしでした。

### 2. 信岡邸から「信岡フラットミュージアム」への改築について

講師 大角雄三氏（大角雄三設計室 代表）

信岡邸は、登録有形文化財に指定されており、現在は、その「長屋門」が大角雄三設計室によって改築され、「外観を江戸時代そのまま保存し、内部を芸術文化を発信できる複合施設（ミュージアム）として、十分に機能できる空間となりました」とある（「信岡フラットミュージアム」の解説パンフレットに掲載された大角氏の言葉）。その改築には、福山大学建築学科の卒業生が携わったとのこと。

大角氏はこの研修に際して自ら駆けつけてくださり、その改築のコンセプト、改築の過程について、貴重なお話をしてくださいました。学生には、またとない機会となりました。

その改築のコンセプトについて、氏は、次の3点を挙げられました。

- ① 外観については、この長屋門が建てられた明治時代当初の姿に戻す
- ② 昔の庄屋の姿をとどめながら、現代に生きるづける民家としてこの地域に開かれた文化芸術の発信基地としての役目を目指す
- ③ さまざまの電台の方々が訪れる場として提供し、この建物の活性化とこの地域の活性化につながることを目指す」の3点挙げられました。

この基本構想ができるまでに2～3年かかったとのこと。そこから具体的な作業の過程について、スライドによって説明がなされました。





### 3. 府中市立歴史民俗資料館

府中歴史民俗資料館においては、**学芸員の谷重豊季氏**の情熱的な説明に、一同聞きほれました。

府中市に奈良時代の国府があったこと、そのために、普通は出てこないような発掘品が出ることなど、展示物についての説明がありました。例えば中央から赴任した官僚が使用していた硯、銅印や身につけていたベルト、高級な輸入品の焼き物などです。また、その官僚の中には、著名な歌人もいたとのことで、そのエピソードのお話もありました。また、この地域に特徴的な焼き物の形があること、それは女性が作業者であり、それと同じ型のものが出土する地域は、その女性が嫁ぎ先に技術を伝えたものであると推測され、それによって通婚域が判定できる、といった話もありました。

資料館の建物については、現在も全国に残っている郡役所の建物のうち、西にあるものは少なく、数件の内の一つが、この府中の郡役所であるとのことでした。この建物は、近い将来に元あった西国街道沿いの場所に移築されるとのことで、その調査が始まっているとのことでした。

府中が古代社会において重要な場所であったことを知り、参加した学生は驚いていました。そして、奈良時代の役人たちの服装を試着し、「コスプレ」を楽しみました。

きゅう あしな くん やく しょ ちょう しゃ  
**旧芦品郡役所 庁舎**

この建物は1903年(明治36)2月、芦品郡府中町に新築された芦品郡役所庁舎です。均整がとれ安定感ある外形、漆喰壁に隅石飾(現在は隅石風に復元)、大きな胸蛇腹、軒下にめぐる飾り、車寄せとその軒飾り、上げ下げ式ガラス窓等々が当時としては斬新です。洋式のトラス架構により、2階は柱を立てず広いスペースを確保しているため、郡会議場だったと考えられます。白色と水色の美しい外観の建物を見た人々は、新しい時代の雰囲気を感じたことでしょう。このような洋風と和風が折衷された建物を、研究者は「擬洋風、建物と呼んでいます。

郡制は短命に終わり、以後この建物には県の出先諸機関が入りました。街のランドマークのような存在だったため、1976年頃取り壊しが決まった時、それを惜しむ

多くの市民の尽力により移築保存が叶いました。その解体作業時、梁に「棟梁板倉保兵衛・後藤喜太郎」という墨書が見つかりました。後者は芦品郡出口町の人だそうです。

現存する明治時代の郡役所庁舎は僅少で、ここから西では熊本県に1棟のみです。府中市はこの貴重な建物を市重要文化財に指定し(1977年)、大切に後世に伝えることにしました。

2011年4月1日  
府中市歴史民俗資料館



▲参加学生の感想から抜粋したものです。

## ・人間文化学科の学生

「江戸時代に100年以上にわたって庄屋を続けられ、備後地域の発展に貢献されてきた信岡家の方の住宅が現存しているのは貴重であるので、次世代に残していくことがこの地域に住んでいる私たちの役割になってくると考えた。」

「庄屋が当時どのような役割を具体的に果たしていたのか知ることができた。地域の行政、治安、福祉などその役割は多岐にわたり、村の全責任も担っていたことから庄屋が果たす役割は地域にとって非常に重要な存在であったのだろうと感じました。また、旧芦品郡役所では、他で余り見ることの出来ない装飾や展示品を見ることができて貴重な経験でした。信岡邸で聞いた文化財登録制度、建物の再生に関する話を聞いて、ただ古いものを壊すのではなく、地域の中で活かすためにはどうすれば良いのか、若い世代も考えていく必要があると感じました。」

「山名さんの説明において一番印象に残ったのは、家を見る際の立地条件についてです。」

「最初に山と水を見る。三番目に道」と聞いた際、これまでいくつかのフィールドワークにて軍事や貿易における交通の要衝として栄えてきた地域を思い出しました。」

「大角さんの話においては、「直した所を取って残す建築方法を取っている」と、ここで直して終わりではなく次に修復する代にどう引き継ぐか、言葉で残すのではなく建築で語りかける建築士としての誇りを見たような気がしました。後世にどう保存し伝えていくか、文化系の人間としても考えさせられる一日になりました。」

「一日を通して建築学科の方たちが建物について楽しそうに話しているのが新鮮だった。」

擬洋風の元郡役所では、貴重な建物と、国府があった時代の文化を知ることが出来た。建物を保存・移築しようとする文化財保護に関してのお話も印象に残っている。」

## ・建築学科の学生

「信岡邸は伝統的な和風建築であるのに対し、府中市立歴史民俗資料館は文明開化を感じさせる擬洋風建築である。今回の見学会ではこの対照的な2つの建築物を比較しながら見る事ができた。見学会を通じて建築、歴史、食の観点から備後地域について学ぶことができ、地域について知ることによって建築物への理解もより深まったと感じた。今後卒業研究を行う時にも、この学びを生かしていきたい。」

「私はリノベーションに興味があり、今回の見学会で、古い建物の使える所はそのままにしていることで、信岡邸の魅力がより増していると思った。また、古くても柱のような建築物の基礎となるようなところは少し手を加えるだけで、今も建ち続けることを知り、とても面白く感じた。昔の衣装を着せていただき、今の洋服の機能性が優れていることを改めて知った。今回の見学会を通して、歴史的な建物については調べることがあるが、昔の衣食住を知ることができ、貴重な体験になった。」

「リノベーションについて興味を持っていましたので実際の建築をみて余計に興味を引き立てられました！実際に設計に関わった建築士さんのお話もとても印象的でいつの時代に戻すのかを考えるという点が自分の中で印象にのこりました！建物を見て回るにしてもどこをどう見ればいいのか、その建物の歴史など知ることが出来ないのこのような機会をくださって本当にありがとうございました。」

「今回の見学会で、古いものを残しつつ、その中に新しいものを加えて時代を繋げるという方法を知った。新市町信岡邸では、新しく付け加えたものを昔の姿で残すのではなく、あえて素材や色を変えることにより昔と今のどちらも残すことで新たな建物デザインが生まれていた。一本の松を、加工を施さずそのままの姿で使うことにより、規則性のある空間に一つ不規則な部分が生まれて、視線にも焦点を当て、デザインを計画されていた。また、畳張りであった茶室を立礼茶室にすることで「畳で正座をすることが難しい」といった利用者のニーズに合わせて計画されていた。」

府中市立歴史民俗資料館では、今抱えている建物の問題やこれからの活動について詳しく知ることができた。また、地元愛を感じられるとても素敵な資料館だった。」